

公民館等職員専門研修① 実施レポート

日時：令和元年7月12日（金）10時～16時 会場：県生涯学習センター 参加者：30名

公民館や市民センター等の職員を主な対象とした「公民館等職員専門研修①」を実施しました。今回は、「防災キャンプのすすめ～楽しみながら『防災』を考える～」をテーマに、ワークショップを交えながら、防災への意識を高める必要性と手法について学びました。

【講義】

本研修は、日本赤十字秋田短期大学の及川真一講師から、全日程を通じて指導していただきました。はじめの講義では、講師自身が東日本大震災で被災した経験をもとに、災害時の対応は正解がなく、それまで得た知識を応用して生き延びる必要があること、そのためにアウトドアのスキルが有効であったことを話され、防災キャンプの意義を強調されました。

また、短大での実践から、防災キャンプは住民の防災意識を高め、若い世代の人材育成にも効果的であることを指摘され、学校教育や社会教育の身近な活動（例えば運動会やお祭りなど）と防災を結び付けることで、様々な切り口で防災教育が展開できるというヒントをいただきました。



＜体験に基づくお話は心に響きました＞

【ワークショップ①】

ワークショップ①は、大型テントやテーブルが並べられ、アウトドアの雰囲気を演出した生涯学習センターの駐車場で、カレーライス作りに挑戦しました。ご飯はビスケット缶を飯盒の代わりとし、携帯用のミニコンロと固形燃料を使って炊きました。カレーは耐熱用ポリ袋に材料を入れ、お湯で温める調理方法で作りました。

ご飯が炊けるまでの間にも、ファイヤスターター（火打ち石）での着火体験、ペットボトルを切り出してのスプーン作り、シェラカップで飲むコーヒー、特大のフライパンを使ったポップコーン作り、非常時に役立つグッズ紹介など、



＜まるでキャンプ場！＞

アウトドアならではの楽しい仕掛けがふんだんに盛り込まれ、参加者は「子どもに返ったように」歓声をあげながら防災キャンプを楽しんでいました。「災害時に美味しいものを食べることは、非日常を日常に近づけるために大切」という講師の言葉が印象的でした。



＜カレーライス完成！＞

【ワークショップ②】

昨年の熊本地震では、東日本大震災で課題となった避難所の劣悪な環境が改善されていなかったことから、講師たちが現地でアウトドアのスキルを生かし、状況改善に取り組んだ実践をうかがいました。

国際基準に則った避難所の「質の向上」（スフィア基準～トイレの数や一人当たりのスペース、食事の質など）について紹介していただき、従来の段ボールによる間仕切りではなく、屋内用の簡易テントを使うことの有効性について学びました。参加者は実際にテントを設営し、十分な空間やプライバシーが確保できることを実感できました。

また、非常時用の防災グッズについて、誰がどういう場面で使うか考えながら、実際に使ってみて本当に必要なものを揃えることが大切というアドバイスをいただきました。防災について楽しみながらも真剣に考えることができ、得るものが多い一日となりました。



＜センターのホールが避難所に＞

【参加者の声】（抜粋）

- ・災害の話は色々聞いてきましたが、一番心に響きました。もっとお話を聞きたいと思いました。
- ・自分自身の防災に関する意識が大きく変わりました。
- ・公民館の事業に取り入れ、地域住民に広げていきたい内容でした。
- ・自分の公民館と比較しながら、イメージをもって参加できました。帰って職員と共有します。